もも・ネクタリン特報　号外

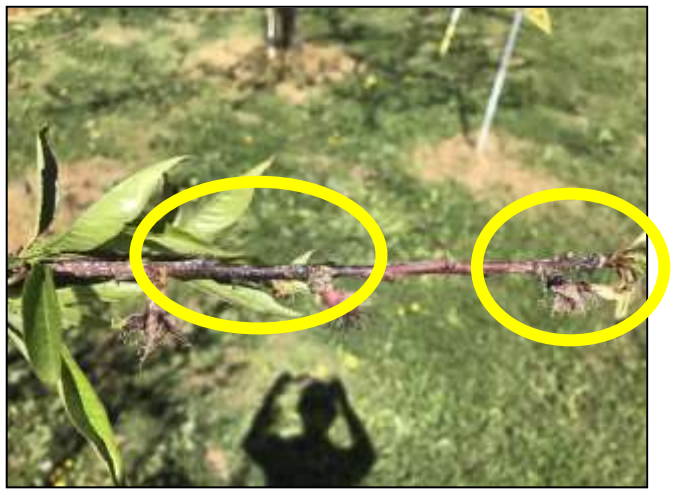
２０２２．５．１７
ＪＡ中野市営農センター
ＪＡ中野市りんご･もも部会

【重要】

本年のせん孔細菌病発生状況は、昨年に比べると少ない状況となっています。近年の傾向としては、枝先端部分の発生が目立ちますが、本年は枝の中間部また基部にも発生が見られます。

そのため春型枝病斑の切除を実施する際は、先端部分以外の確認も行い見落としのないように除去作業を行って下さい。

「せん孔細菌病」春型枝病斑除去　撲滅週間



期間：５月１７日（火）　～　５月２７日（金）

「せん孔細菌病」春型枝病斑の発生が始まっています。そのため、昨年に引き続き枝病斑切除の強化週間を設定いたしました。

もも・ネクタリン栽培者の方におかれましては、作業のお忙しい中ですが**枝病斑切除**の徹底をお願いします。

切除方法

①　結果枝の先端部・中間部を点検する。

②　枝病斑よりも基部の健全な芽を３～４芽含んで切除する。

【今後の管理作業について】

本年、凍霜害被害により結実不良が心配される園地では、以下の着果管理をお願いします。

予備摘果

※結実不良が心配される園地では、極力行わない。

※生産量確保のため、着果位置の悪い果実でも残す。

仕上げ摘果　⇒　見直し摘果（必要に応じて）

①満開４０～５０日後頃に実施

②本年は、６月１日～６月１０日頃を目安に実施する

もも　　結果枝別着果量の目安

結果枝	予備摘果	仕上げ摘果
長果枝	2～3 個	1～2 個
中果枝	1～2 個	1 個
短果枝	0～1 個	0 ～1 個

（長野県果樹指導指針より）

仕上げ摘果の要領

低温被害等により結実にバラツキがある場合や不足している場合　※必ずお読み下さい。

⇒　品質・着果位置が悪くても基準量確保のため残す。（樹冠の上下・着果位置に拘らず果実を残す）

・成木 10ａ当りの目標着果量は、10,000～12,000 果とする。樹勢が弱い場合は、着果制限する

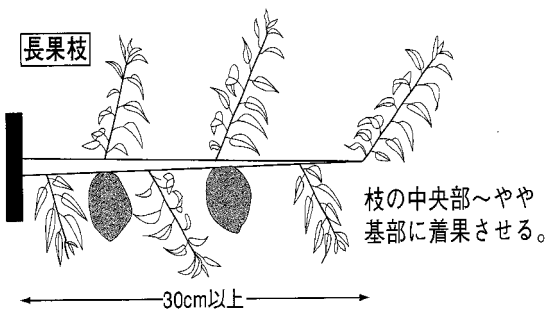
・残す果実は、大きくて扁平な果実を残す

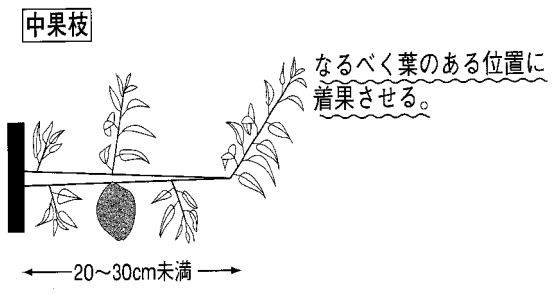
・着果位置は、結果枝の側方、または下方の果実を残す（上方は摘果する）

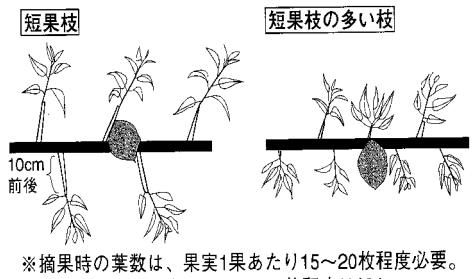
・長果枝（30cm 以上）が 2 果、中果枝（10～30cm）が 1 果、短果枝（3～10cm）が 6～10 枝に 1 果着果させる（＊図 1 参照）

・葉枚数は、モモが 1 果当り 40～60 枚、ネクタリンが 30～40 枚必要

・順序は、白鳳系・あかつき・なつっこ・白根　→　川中島白桃・ネクタリン　→　黄金桃とする
（黄金桃やファンタジアは生理落果が多いためやや遅めに実施する）







※摘果時の葉数は、果実1果あたり15～20枚程度必要。
収穫時には、果実1果あたり60枚程度はほしい。